

鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

第11回ワークショップ会議録（現地見学後）

日時：平成24年9月29日（土） 11:00～12:00

場所：鎌倉漁業協同組合会議室（見学場所：小坪漁協、坂ノ下地区）

参加者：加者：公募市民：10名 関係団体：7名 計：17名 傍聴者：2名

ファシリテータ：齋藤 潮氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

ファシリテータ補佐：橋本政子氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科齋藤研究室）

事務局：鎌倉市役所：市民活動部産業振興課

加藤課長、近田課長補佐、根本事務職員

（財）漁港漁場漁村技術研究所

浪川職員、田島職員

東京工業大学大学院社会理工学研究科 齋藤潮研究室院生 4名

プログラム（現地見学行動予定）

	時間	行 動	備 考
①	8:30	受付開始	市役所正面玄関前
	8:45	出発	マイクロバス
②	9:00	小坪漁港見学	施設見学、解説 他
	9:30		
		移動	マイクロバス
③	9:45	坂ノ下地区周辺見学	浜小屋見学、漁労体験 他
	10:30		
④	10:30	坂ノ下護岸周辺見学	徒歩
	11:00		
⑤	11:00 12:00	意見交換	鎌倉漁業協同組合会議室
⑥		解散	市役所まで送迎可

配布資料

資料：現地見学予定表

資料：現地見学資料（地図）

意見交換会

① 現地見学を終えての感想

現地見学を終えて、今の感想を参加者に話していただきました。

F T : 前回と同じようにお一方ずつご意見、ご感想を述べていただこうと思いますが、今日は漁業者側が皆さんをお招きしたので、お招きされた方の方々を中心に意見を聞きたいと思います。

それでは、そちらから。

参加者 : もっと早くやるべきだった、それだけです。

F T : そうですか。ありがとうございます。いかがでしょうか。

参加者 : 現場を見られたのはすごく良くて、皆も色々なことがイメージしやすかったのですごく良いのですが、これでこの前出た「ある事業体」の話がどうなったのか、これで終わってしまわず、ちゃんと話を詰めていくべきです。あれはとても重要で、皆が「それは良かったね」と多くの人が思ったので、あれがこのまま立ち消えにならないことを願います。

F T : それは、今回のワークショップ(以下「WS」という。)はあと2回しかないのですが、その中でということでしょうか、それともWSを超えてという事でしょうか。

参加者 : 超えてというわけではなく、この間はいずれがメインで話し合われるのかというぐらいの流れだったのに、あれはどうしちゃったのかなという思いがあるので、それを話し合いたいと思います。

F T : ありがとうございます。次の方どうぞ。

参加者 : 私何もありません。ただし、今日の現地踏査は、私にとっては珍しくもなんともありません。あの辺は100回か200回か朝5時半とか8時半とかに来て、作業風景を見ているので十二分に想像できます。その意味では全然新鮮味がありません。むしろ、WS論をこの頃ファシリテータ(以下「F T」という。)が口にされているので、この会合はWS論の会合だと私は思っていませんでした。WS論がいかにあるべきかとか、そういうものだとは思っていませんでした。

参加者 : 今終わったばかりなので、少し整理がついていません。体験させてもらい、ひよこサラリーマンにはきついな、3日もやったら私は死ぬなと思いました。それは事実です。とはいえ、小坪へ行って見て、簡単に言うと、漁業者さんたちが自分たちがお金を出して造るといふのなら、反対はないかなと思います。税金の使い道としてどうなのかなという問題がやはり残っています。大変なのはわかりました。わかるのですが、市民にどう還元されるのか、という部分が明確にならないと、市民のお金としてそれ

第11回ワークショップ議事録

を造るのはどうなのかなという疑問の解決には、今回はならなかったというのが正直な感想です。この間旅行ついでに出雲の境港というところに行ってきたのですが、そこはもう本当に港が中心の観光にはなっているのです。とはいえ、港にお客さんが来ているわけではなく、そこで取れた魚等を買ったり食べたり、それに付随して周りに鬼太郎などもありましたけど、そのようなまちだからこそ、港が必要なんだろうなと思いました。鎌倉もそういうようなまちだと、誰もが思うような状況になれば、必然的に港は必要なんだろうなと思いますが、今のところはそういうことではないし、前回23年度にやった結論である今は無理であるというのは正しい判断だったのだろうなというのが正直なところだと思います。やるのだったら、本当に境港のようなまちを作ろうとするのだと、今の案では絶対無理だと思います。それこそ、掘り込み式ではないですが、大きいのを造って、どんとやると、鎌倉をそういうまちにするという覚悟を市民全体が持ってやるしかないと思います。

今の案だとすべてが中途半端です。結局小坪に行って聞きましたが、市民が利用することはほとんど不可能で、危ないだとか、何かする駐車場だとかそういうのも、空間だとかあるし、とはいえ使用料もとっていないし、全ては税金であるということだし。今のままでは市民に還元といっても、緑地ができるというレベルで終わってしまう気がします。であれば、今緑地はありますし、市民にとってはいらないのではないかという結論になりかねない。なのでやはり、さっきもありましたが、前回の会議WSで皆でいろいろな魚を市民に還元する方法を考えようとか、やはりあれを先行して、あれをどういう風にするのか、それに必要なのは何なのかという議論をしていかないと、解決しないし、漁業者のみなさんはああいう命がけのことを毎日やっているわけで、日々だけがどんどん過ぎていくという、なんか、非常に、すみません、まとめる時間がないので、思うところをずらずらと言っていますが、何かそんな感じです。

あと緊急にやらなくてはいけないのは、あそこ今あんな状態で、手作りの小屋みたいに自分が見えたのですが、砂浜はでこぼこしていて、あんなところで命がけの仕事をするというのは非常に危険だと思います。まずはあそこを今改善するべきではないかなと。ま、思いついたことは、簡単なことしか思いつきませんが、たとえばコンクリートをあその前、そこだけにひくとか。プロの皆さんがたくさんいると思うので、あそこをどう改善したら良いかというのを早急にやって、1年でも良いから早く、そちらをやった方が良いのではないかと思います。

第11回ワークショップ議事録

参加者：企画自体は非常に良かったと思います。思っていたよりも皆で歩いてみた方が分かり易かったです。細かいところ言えば、ちよろちよろ見ている中で思ったこととか、改めてまた聞いてみたいこととかありますが、私も整理できていないので、整理して、確認してみようかと思っています。少しだけ、今日の中では残念かなと思うのは、あれは平成21年度だったか22年度だったか、そもそもなぜ漁港が必要なんですかという議論があった時に800万円くらいかけて外部業務委託して、なぜ漁港がいるのかというレポートを作られましたよね、市役所で作りましたよね。

事務局：構想をまとめようという段階の委託業務で。

参加者：もともと私はあれの中のあの理由付けがいま一つよくわからないのですが、というのがスタートだったのですが、あれの中のものを改めてみたら、その中では、これがあるから漁港は必要不可欠です。という、例えば、後継者育成のために港が不可欠である、とか、あるいは、直売をするために港が不可欠である、とか、あるいは、朝市や魚祭りをするために不可欠であるとか、あるいは養殖をするために、いけすを作るために、とあったのですが、小坪を見ている中では、なぜそれが不可欠なのかが少し私にはわからなくて、あの場で、他の市の漁港で、後継者は何をしているのですかとかは聞けないので聞けなかったのですが、そこがなんか、紐付けができないのが、すっと来ない。概念的にはもちろん、自分も船を押ささせていただきましたが、非常に大変だよね、と思うし、あった方がよいよね、というのはよく理解しますが、なんで、どこまで、どういう目的で、誰のために、何のために、と考えると、何かすっと来ない、というのを期待してきたので、すこし残念でした。

参加者：小坪漁港を見て、あの漁港で小坪の漁業協同組合の方の船が全部入っているというので、100m×50m位でしたか、そんな広くなかったので、別にあれぐらいのものだったら、まあ、鎌倉の漁港をどこにつくるかにもよるのでしょうか、あれくらい1個あってもあまり違和感はないかなと、そういう風に思ったというのが1個で、そうですね、まあ、とりあえず今はそれが感想で、港作ってどうするの、という、さっきの例えば、そうですね、まちとしてこういう風にこうするからそれで港がほしいって。港をとりあえず造らないと何にも始まらない気もしないではないし。まあ、どっちがさきなのか、少し考えるところかなという気がしました。

参加者：私は皆さんがおっしゃったこととかなりダブっているので、その辺は省略します。ただ、私の立つポジションとしては、無理論なのですけれども、いわゆる、無理だろうなど。じゃあ、そのままが良いのかということが私

第11回ワークショップ議事録

にとっての関心で、今日見ても小坪の漁民の人と浜で作業をする人ではえらい差があるし、大変だろうなど。だけど、これでまた無理論を言っているとまた60年同じような繰り返しになるかもわからないし、でも無理なものは無理で、できないかもわからないし、ほっといて良いわけではないから。やはりその中で何が考えられるかというのは、今回を機会によく検討した方が良いと思うのですが、代替案として腰越だとか小坪という、収容能力がないということで一発で終わってしまうような気もするのですが、私が今日見た限りでは、全員が全部移ることはできないにしても、例えば10軒なら10軒、5軒なら5軒、少しでも動かせるなら、少しずつでも動かして、実際に効果を見てみる、いわゆる全員動かないのだったら港ができないのだったら、今後は全員残るというのではなくて、具体的にできる範囲内で前向きに代替案というものを進めるということをやりたいなと思います。

参加者：前回のWSは傍聴させていただいていたので様子はわかるのですが、結構あそこの場では漁業者側から色々なビジョンを示していただいて、今後あれをもう少し検討していくべきではないかなんていう話があって、ただそれを受けて次は現地踏査だ、ということに対して個人的には疑問がありました。あの議論をどうしていくかというのが示されないまま、現場に行ってしまうという。ただ、今日現場に来て、私も地元で見ているのですが、実施に船を押す姿とか、浜小屋の中まで見たことはなくて、それはやはり危険だとか、明日にも台風がくるという状況の中で、やはりどうにかしなきゃいけない問題かなというのは、本当に見て分かったというのが、今回非常に良かったと思います。

それで思うのは、今までの議論にもあったかと思いますが、そういう短期的な問題をどうにかしなきゃいけない、で、その手法というのは、明日くるのにそこに明日漁港はもうできないので、どういう方法があるのかというのを議論する必要があるとは思いますが、WSで、時間がない中で、たまたま知った、見たという貴重な体験をさせてもらっているメンバーではあるのですが、その短期的な目的だけを、結論をもっていくためのWSでもない、そこは、せっかく見た後のうまく生かしていくような方法というのを漁業者なり地元なり行政の方がしっかりとやっていくべきだな。それと同時に、漁港の問題については、前回のWSでビジョンが出たように、もう少しその、何で必要かという、水産業を含めたビジョンを、産業振興課がやるというよりは、まちづくりとして市がどういう方向を示していけるのかを、まあ市民を含めてですね、というのが必要かと思って

第11回ワークショップ議事録

いて、それを少なくとも2回のWSで議論ができないかと。やはり市の他の部署なども巻き込みながら、たとえば、掘り込み案は色々な、この間のWSの提言のようなものを実現させていくにも、もしかしたら良い場所なのかななんて思って、それをきちっと時間をかけて作って行ければ良いんだろうなど、そういう風に思いました。

参加者：まず、あの、船を押してみたかったのですが、腰を先週悪くしてしまってできなかったのが残念でした。風邪をひいたり腰を悪くしたりであまり頭がすっきりしてません。

まずやはり、海はよくぶらぶらしているが、浜小屋の中を見せてもらって、浜からそのまま続きで、これで台風がきたらもろに入っちゃうなどというのはすごくよくわかって、要するに、そういう自然に防ぐものがなく、作業しなくてはいけないというのは、今の文明の中でなんとかしなくてはいけないことだと、私は強く思いました。

小坪の方を見てなのですが、鎌倉の漁港をイメージして小坪を見たのは初めてだったのですが、やはり、ああいう閉じたところを作らなくてはならないんだなというのを思って、結局波が来るのを防がなくてはならないので、閉じなくてはならない。そうすると漁業者の閉じたスペースに、ある程度なってしまうのかなと。で、こっちの浜を見た時に、今、マリンスポーツの方と船との危険がすごく大きい。じゃあ、どう鎌倉に漁港をおさめたら良いかというのを、どうも、ああいう閉じたスペースの中に置きたくないというのが、どうしても。はっきりしないですが。やはり今イメージしようとするとはやはり掘り込み式。やはりマリンスポーツなり、きれいな浜なりと分けたところに漁業の活動という風にするのが、私は、たった今ですね、そういうイメージを、描くと、なります。

参加者：皆さんの意見を聞いてて、どれもその通りだと思ったので、私は私なりにマリンスポーツ連盟という立場で意見を言わせていただきたいのですが、さっきもありましたように、サーファー、もしくは、ウィンドサーファー、はやりのスタンドアップというのがあるのですが、それとのトラブルというのが絶対に考えられると思うので、これは、漁業者の方の考えではなく、私達の考えとして、鎌倉市が鎌倉の湾・浜をどのように利用していく、どういう風に活用していく、ということを、それが最終的には港を造れば問題は解決できるんだという方向を、市が考えていただいて、漁業者からの要望と合わせて、総合的に考えていかなくてはならないかなと思います。というのは、夏場の海水浴場の問題もありますし、説明すると色々あるのですが、全体的に考えていけば、必然的に港が必要

第11回ワークショップ議事録

になるのではないかなと私は考えているので、そういう攻め方も一つあるのではないかなと思います。

参加者：私は生まれも育ちも材木座なのですが、海をみて育ってきましたけれど、今日、改めて、漁業の方と話をさせていただきながら拝見させていただいて、今、造れる、造れないという話もありましたけれども、やはりある程度、理想的な港ってなんなのかというのを、やはり計画しておくべきなのではないかなと思うのです。これは造る、造らないは別として。やはりこれが手遅れになってしまうと、やはり漁業者の意見、我々市民の意見が反映されないものを勝手に作られてしまうという危険性も出てくる可能性があるわけですね。まあお金をいくら使うなどいっても、お金を握っているのは役所なので。そういう考え方をすれば、ここで一つの方向性というのを作っておかなければいけないのではないかなという風に考えます。ですからやはりある程度このWSの皆さんの意見を聞きながら、漁業者の方の意見も聞きつつ、造るんであるなら、より一層良いものを、という形の方向性を取っていくべきではないかなと、今日見せていただいて、そう感じました。

F T：まだご発言していない方はいらっしゃいますか。それでは、一通り今日の感想を話していただいたので、漁業者の方から、何か一言お話いただけますか。全員とは申しませんが、どなたか代表で。

漁業者：今日は暑い中どうもありがとうございます。現場を見ていただいた通り、小坪漁港と私たち鎌倉の砂浜を使った漁業とはだいぶ危険度が違うと思うので、漁港を進めることを宜しくお願いします。

F T：ほかにいかがですか、お若い方は。

漁業者：今日小屋を私は見てもらったんですけど、また台風が来るたびに直して。新しいものも欲しいなと思うのですが、どうせまた来るなとそういう考えがあって、何もできずに、今、いるのですが。一番危険だなと思うのが、波が来て、小屋が流され、道路に上がっちゃったりするんじゃないかなと。そういう年がいつか来るなと思います。そういうことがないように、なんか、したいなあなんて考えているんですけど。

F T：ほかにいかがですか。

漁業者：一つは直近の問題、今日見ていただいた浜の危険度をどう軽減していくかという問題。これはもう皆さんみれば一目瞭然、あの浜小屋の中にある様々な機械というのは、高潮なり高波なりがきて砂が被れば全部廃品になってしまうのですね。それをまた、一から全部購入して立て直さなければならぬ。保険等々も入っているのですが、毎年毎年のことなので、保険

第11回ワークショップ議事録

の引き受けもままならなくなっているという状況なのです。一回流されてしまうと、そのたびに何十万かの金その復旧のために飛んでいく。そのことを何とかしなくてはいけないという直近の問題。

それから、もう一つは、ある長い時間をかけて解決していかなければならない問題として鎌倉の水産業をどういう風に活性化していくかということ、その両方を解決する物理的手段として将来にわたって漁港をつくっていくということがビジョンとしてはあるのではないかと。その二つを並行してやっていかななくてはならないのが現実の問題だと思うんですね。で、これはもうみなさんから知恵を出していただいて、この安全をどう確保していくか、そのためにどう予算を付けていただくかということが一つあります。

それからもう一つは前回ご提案させていただいた鎌倉の水産業を鎌倉の大きな目玉として、鎌倉の産業の大きな目玉として育てていくためにはどうしたら良いかということをもう一つの方向として、きちんと市民を交えて論じて行かなければならないのではないかと。具体的には前回から何をやっているかということ、仕事をしながらなので中々進んでいないのですが、いわゆる六次産業という言葉でいわれているように、生産者が流通や加工まで自分がしていくことこの道、これに対する行政からの補助がどういう風になっていくかということも現在調査中であるということと、私個人としてはそれだけではなく、この仕事を市民や行政も含めたいいわゆる第三セクターとして展開できないかということも今考えています。六次産業化を第三セクターでやっていくという例は今無いんですね。今まで。それからさらに鎌倉の障害者団体の方からもとても良いご提案だということで、色々話し合いたいという風に申し込まれているので、それも含めて話し合っていきたいという風に思っています。だけど、何せ時間がないので、それほど早急には展開できないかもしれないのですが、地道にやっっていこうと思っています。

一つ、今の話とは別に、今日、小坪を見ていただいたことで一つ言っておきたいことがあるのですが、小坪漁港ができたのが、昭和26年か27年です。（漁港指定が27年ですね）。全国津々浦々にある漁港というのは、昭和25年から27年の間に、多分8割から9割がその時期にできているんですね。要するに戦後の復興期に一斉に全国津々浦々に漁港ができたんですね。じゃあその後昭和30年代から40年代以降に、大都市直近に特に大都市直近に漁港が建設されたという例はほぼ0に近いんじゃないかと思えます。

第 11 回ワークショップ議事録

それは、昭和 25 年から 27 年の復興期に、かなりのパーセンテージで全国に漁港が整備されたということが一つ理由なのですが、それから考えると、今、私たちが今造ろうとしている漁港というのは、いわば全く新しい試みだと捉えてしまった方が良いのではないかと思っているんですね。昭和 25 年から昭和 27 年の段階で産業復興のために漁港の整備をした、官が先導してつくったという時代では今ないですから、今我々が目指そうとしている漁港建設というのは、本当に新しい視点と新しいビジョンをもってやっていかななくてはならないのではないかと私個人は感じています。

F T : そのことについて漠然とでもイメージをおもちではないですか。

漁業者 : 具体的な絵をかけといわれると難しいのですが、産業振興として漁港がつくられたということは、ここに漁港をつくるから、皆がんばって生産しろという方向ですよ。それとは全然違う、ここに漁港がほしいという市民なりの願いがあって造られるというものでは、おのずと機能が違うのだらうと思います。機能が違うということは、船をあげたりする物理的な機能というのは一緒なのだらうけど、その周辺につくられる施設だとか、場所であるとか、あるいは、何でしょうか、機能ですよ。昭和 20 年代に作られた漁港の機能とは多分違うものにならざるを得ないのではないか、なるべきなのではないかと思えます。

② 次回以降のワークショップについて

F T : さて、今日はもうあと 30 分しか時間がないのですが、残された 2 回の WS について。一つは、前回行われた事業展開の話をもう少し詰めていったらどうかという話がありました。もう一つはその中に漁港建設という問題もからめて考えるべきではないかという、そういうこと、あるいは、漁港を造る、造らないというのを決めるのでは、どういう漁港であれば良い漁港になるのかというのを検討する時間が欲しいという意見もありました。この 2 本立てで、次回の委員会を使ってもよろしいかということ。今の雰囲気ですと、漁港の話をする、この WS では漁港を造ることを承認したのではないかと受け取られるのが嫌で、皆さん少し敬遠されていたというように感じますが、終わり方としてそういう風にならないように終わらせることというのは十分考えられるんですね。例えば 2 回で、別々にやっていくと一方で行われている議論が自分たちに入らないから不安であるという意見もありましたから、例えば次回の 1 回はどちらか先にやって、残りの 1 回はどちらか残りの方をやると、いうこともあり得ます。最初の 1 時間は検討したいことをそれぞれ分かれてやって、残りの 1 時間で

第11回ワークショップ議事録

意見交換をして、こういう討議が出たということをする、そういうやり方もあります。どういたしましょうか。

参加者：全部の流れの中で、誘導されている、誘導されていると。全部の流れから見たら、すでに1年半も、いわゆる、賛成なら賛成、反対なら反対という意見がかなり出尽くしている。かなり細かく議論ができていて、後どうするの、という段階について決めてみませんかという中で、個別に話をするとか、別な会を立ち上げてやってみようとか、話が出たりしている。我々にしてみれば、毎回、F Tが何か言うまで何をやるのかさっぱりわからないし、事前準備もできないし。その場で思いつきで言って、言い残したことはメモしてくださいと。次にやってくると、皆が理解を示して、前は反対したけれど、総合的に見れば皆があった方が良いという雰囲気ですよと、だったら造りましょうと、総意ですと、そういう雰囲気がだんだん醸成、作られている雰囲気です。先日、市役所の議会の中継で前川さんという女の議員が立って、この問題について言っていたら、色々このWSについて触れて、かなり細かい点も議論されているということは理解するけれども、そもそもは漁港を造るためのWSだと、だから早くWSで、漁港を造ろうという雰囲気をまとめてくださいね、良いですね、という形で締めくくられたんですね。私はあれをみて、自由に、というようにやっているこの会が、議会が言っているように、そういう方向にまとめていくと、いうことの作業をしていて、あと2回残っているものも、そういう流れに乗るようにしていかないと、産業振興課の方も議会の裏切ることになるし、議会の方も、予算をパスしたのも、そういうことに努力していくんだらうと、あるいは努力してもらいたいからF Tに出して、そういうプロフェッショナルな方に、反対賛成ともめないように、うまくまとめて行く、技量ですね、持っていくと。そんな風だと思うんですよ、依頼主から見ればね。だからそういうことになっているのに、いつまでも新しいように何かやってください、皆さんの意見を聞きますと言うんだけど、所詮何か決まった方向にですね、持っていきこうという努力をしているようにしか、だんだん見えなくなってきていますね。だから、あと2回でどうしますか、と言われても、私なんかは、もうここまで言い尽くしているのだから、具体的に、作業環境がだめなんだから、代替案で腰越だとか、小坪の港をこちらの漁民の方がもっと色々使えるようにして、少しでも実害を減らしていくという議論の方が大切なような気がしているのですね。率直な話ね。

参加者：この話って、せっかくここまでやってきて、このWS以降、スケジュール感、やり方というのはどういうものですか。なぜそれを言いたいのかとい

第11回ワークショップ議事録

うと、WS自体はあと2回で終わりますねと、この2回の中で、成果といえるものができるのか、できないのか、少し私も悩ましいなと思っています。したがって、せつかくこれだけ、残った方相当真剣にこの話に取り組んでいると思うんですけども、正直言ってこれをうやむやにされるのは非常に不本意なので、何かやはり残りたいたいと思っています。思えば、長い間やっけていながらも、市民の話聞く機会は全くなかったよねという、そういうのから出始めて、そこそこ良い形で、いろんな意味でいろんな立場の方の意見もよくわかるし。あるものは歩み寄り、あるものはまだというのはあるかもしれませんが。これで終わった後、どうするのだろうというのがないと、基本的にその後何もしないというか、であれば、無理矢理でもなんか成果を造らないと、なにやったのという話になってしまうし、何がしかそういう形が続くのであれば、前と同じで、後に対するメッセージという残し方もあると思うし。そこが悩ましいと思っています。新事業にもすごく興味あるし。この中で頭から漁港なんかまったくいらないだろうと思っている人は多分いないでしょう。でも、それぞれの中に停止条件というのがあって、それが、前回の取りまとめにあるように当面無理という表現になっているのですが、当面無理という意味はなんなのだろうとこの間から考えていて、当面というのは5年先のことなのですかとかの時間の問題を言っているのか、社会環境の問題をいっているのか、例えば、そういう新事業体の構想を言っているのか。何か停止条件があって、で、ということであれば、まだ納得しやすいのですが。当面の意味というのは明日のことなのか、それがまとめのポイントのような気がしてきたんだけど。何ができたら、例えば、もっと具体的に考えても良いんじゃない、とか。たぶんそうだと思う。先ほども申しましたが、皆頭から漁港いらないよねという人はもういなくて、じゃあ今やるかというそれは無理だろうというのが、一つの、前回までの整理だったので、その当面って何というのがポイントだと私は思っているんですね。ごめんなさい、ぐだぐだ言いましたけど。このWSの後はどうするつもりなのですかというのは少し今聞きたいです。

事務局：WSの1回目2回目に資料を配ってご説明したのがありましたけど、漁対協で答申をいただいて、これで2年目になりますけど、WSやって、その次目指すのが基本構想。その中では、漁対協の提案もありますし、このWSの成果も踏まえて一応市の方で、基本構想の素案をつくるのは市の方になります。その基本構想の素案に対してパブリックコメントをかけて、基本構想にした後は、基本計画といった流れで、その中でWSで出された

第11回ワークショップ議事録

意見、それから漁対協の答申、というのは、どっちが上でどっちが下ということはないと思っています。並列というのですかね。それを、行政の方としてどうやって、色々な意見をたくさんいただいているので、それをどうやって一つにしていくかというのはありますが、先ほどの今後のスケジュール等へのご意見はすごいヒントというわけではないのですが、当面という話、それは、先ほど議会の中で前川議員が触れていたと言いましたけれど、確かに今すぐに漁港を造るというのは、お金のなし、財政が非常に厳しいものですから、できないだろうというのはある程度理解できるのです。将来的には造るという前提があるのですが、当面の事業についてもしっかりやってくださいねというのが、でたのですね。最後、まとめとしては、これだけ鎌倉地区の漁業者が大変な思いをしているのだから、そこに向かって進んでください、というようなまとめをされていました。そういう意味で、「当面」の持つ意味がヒントになるかなと思うのです。今、基本構想をここで作りましようと言ったとします。そうすると、基本構想というのはある程度固まってくると基本計画になる。そうすると、いろんな調査をやったり、色々なお金がかかるのですが、本当に漁港を作るんだということが市の方でも決まらないと、たとえば10年後に造るというためのものを、今、基本構想のようなものをつくっても、本当に良いのかなと思っています。当面無理だねとさっき言っていましたが、では何がクリアできれば、こういったことがクリアできれば、色々な立場の人が納得してくれるんだろうなというのを出していただくというのは、非常にこのWS、色々な立場の人がいらっしゃるので、出していただくのは今後の計画づくりに参考になるのかなと思います。我々も当面難しいなというのは意識はしています。じゃあ、具体的にこういうことが、この間の「鎌倉漁業協同組合の将来ビジョン」の中で示された提案があった、港だけではなく、地域の活性化につながるようなものであれば、それでなければ港をつくるべきじゃないとか、何かそういった制約条件みたいなもの、課題を洗い出してくださいというのは、あと2回しかありませんけれども、そういうのを2回かけて出していただくというのは、今後の計画づくりに際しては、市としてですが、行政としては非常に参考になると思います。

参加者：全く個人から行くと、それが落ちどころ、やるとすれば、それが落ちどころかなと個人では思っているのですが、ただ、冒頭私が申し上げた質問の趣旨からすると、いやもうこれでこの会議は終わってですよ、冒頭おっしゃられた平成24年度の行政計画もそうなっていると思うのですが、基本構想やりましよう、パブリックコメントをかけましようという展開を考

第11回ワークショップ議事録

えているのであれば、申し訳ないのですが、無理にでも結論というか、結論とは言わないかもしれないのですが、成果を作っておかないと、ぐだぐだのまま、WSはぐだぐだでした、じゃあ、基本構想いきますか、というのは皆のためにならないので。この状態で基本構想かけますよというのであれば、申しわけないですが、無理でもなんでもある程度の成果、結論を作らないと、我々のやってきたことが無になってしまうので、幸か不幸か、さっきの繰り返しになりますが、春までの流れの中では、言葉で言うと当面無理という表現があったのですが、私は自分で当面の意味はなんだったのか自分で考えたのですが、ま、それはさっきの話で、言いたくて言ったわけではないのですがね。言いたいことは、このままぐだぐだが良いのかという事なのです。実は今年度になってからのWSって、理解が深まったという成果は感じてはいますが、中身が何か進んだかというとは実は何も進んでいなくて、何もないのですね。これではまさに成果ないよねと。ぐだぐだが良いのかという。続きは、メンバー変わるにしても、形が変わるにしても、続きはあるのか、ないのか、それによって、成果はつくるのか、ぐだぐだが良いのかというのは重要なポイントだと思います。2回の中で。紙になるなら、紙の中をみて、またこれが違う、あれが違うというのを当然やるものでしょうから。事実上、次回2週間後にそんな紙がでるんですかというのととても出ると思えなくて、ちょっと、今後どうするのだろうというね。この会を延長したいと思っているわけではないのですが。

参加者：ぐだぐだやってきましたよね、確かに。ぐだぐだやってきて迷路にも入ったりしたけど、議論の中身に進展がなかったかという、私は進展があったと思うのですよね。単に物理的にどこにどういう漁港を造るのか造らないのかというような話から、鎌倉の水産業をどのように位置づけこれからどういう風に発展させていくかというのを、漁民だけではなくて市民も一緒に考えていけたら良いなというのを、ある種、共感を得られたということが、一つの成果だったと私は思っているのです。ところが、残念ながらそれはWSの中だけであって、私は漁港を支援して下さるであろう前川議員の発言に対しても実は失望したのですが、前川議員さんはWSの中で鎌倉の水産業のビジョンについて話し合っているそうだけれども、そんなことよりも漁港を造ることの方が先決ではないかとおっしゃったんですね。私はやはりそれを聞いて愕然としてしまうのですね。このWSで2年間かけてやってきたことはいったいなんなのだろう、そのことがどうして伝わっていないのだろう、という風に思ってしまうのです。そういう風

第11回ワークショップ議事録

に行ってしまうことで、また、そんな鎌倉の水産業のビジョンなんか考えるよりも早く作れよ、という、荒唐無稽とかあまりにも無謀なことを議員の口から聞いて、やはり、もっともっとうこういう議論を広めていかななくてはいけないのだなと感じました。そのために、こういうWSという狭い範囲での話し合いではなくて、違う形で検討を進めていく、それは、実質というのか実際行動とともに進めていかななくてはいけないことじゃないかなと思っています。漁港・漁協を中心に反対や賛成やそういうことを、いかに市民と一緒にやっていくか、今、障害者団体の方から一緒にやれないかという話が来ていますが、そういうことを広めながらWSの中で深めてきた理解をもっと市民全般に広めていくという活動がこれからは必要なのだろうなというふうに思います。

参加者：さっきから漁業者の方と全く同じ意見なのですよね。今の、皆が話し合っていて理解が深まってきたことが結論になるのではないかという最初におっしゃったことは、本当に全くその通りだと思っていて、ぐだぐだになっちゃうのはむしろ結論が既にある出ていて、皆の理解が深まっている。例えば、ある事業体だかビジョンをつめていくグループとかプロジェクトとかWSを立ち上げましょう、という、それで結論になれるのではないかと。それで後の2回は喫緊の台風対策とか、今、浜が、漁業者さんたちが台風が目の前に来て困っていることを、対策するというところに2回を当てれば良いのではないのでしょうか。もう、これが結論になり得るのじゃないかなと。私は先程の漁業者の方の発言と全く同じ意見です。さっきおっしゃった、二つの、今の安全対策と漁港を含めた港とか地区の全く新しいタイプのものが必要だと、今まで作ってきた漁港は戦後の復興のために皆がやってきたので、その時のものとは違い、今、日本全体は変わらなくてはならない時だから、全然違うタイプのを考え出そうよと、その考え出そうよとの、プロジェクトなりなんなりを、新しく、このグループとは別に立ち上げていきましょうという結論で良いんじゃないかと思えます。さっきから漁業者の方の話が全く、そうそう、という感じを私はうけるのですが。

参加者：そうですが、私が言いたいのは、それが成果で私は良いんですよ、市の成果は本当にそこだと思っているのですが、ただ、それが、今期中にパブリックコメントをかけるよという時に、パブリックコメントに出せる材料としての成果になりますかということです。パブリックコメントの材料とするのであれば、別の成果を無理やりにでもつくらないと、このWSは何したかわからないということになりませんか、ということで、だ

第11回ワークショップ議事録

からこの辺のスケジュール感ってどうなんですかという質問をしたわけです。これをもってパブリックコメントをかけるよといわれるのであれば、このぐだぐだ状態では、ぐだぐだでしたねという材料が、パブリックコメントの材料になっても困ります。(重ねて:そうじゃないと思うという声) だってさ、パブリックコメントって。

参加者: それも結論だからしょうがない。

参加者: パブリックコメントをかけるということは、漁港を造りますというパブリックコメントなら、どう思いますかということで意見をもらうので、将来ビジョンは大事ですねというのは重要な成果ではあるのですが、造りますけどどう思いますかという材料にはならないと思います。だから、私はスケジュール感は大事だと思っています。

参加者: お話になる方の意見、雰囲気、お顔付、そしてこの10回になったのかな、さっきどなたかがおっしゃっていたけれども、大分機は熟したのですね。議論は熟したのですね。漁業者の方ご発言もあるけれども、今のご発言もあるけれども、漁港をということでテーマを最初投げかけられているのですけれども、いろんな要件をそこに盛り込んで、その中にはどんな組織が今後やっていくべきなのか、実際の場面でね、まあ、第三セクターという議論が出てくるが、つまり、どういったやり方で、どういった種類のお金で、どんな構想を盛り込めば、その中に漁港もありきだという、漁港という一つのテーマも盛り込めるか、考え方が整理されているかな、というのは坂ノ下全体の再整備ですよ、私にいわせれば。鎌倉も古い体質の自治体なので、開発というとすぐにリアクションを起こす人々がいるけれども、開発ではないのですね、鎌倉に必要な施設の一つですよ、坂ノ下というのは。坂ノ下全体を考える時に。それをどうやって絵をかいているかという中でいろんな意見があってきた中でそれを要件として載せながら議論して絵をかくという作業を次の1年か半年か知らないけれどもやっていけば良いと思うんですよね。そういう時には、漁業者の方は日々船を動かして朝は大変だから時間がないとおっしゃるけれど、首謀者のリーダーが本気でやらないと動きませんよ、自治体なんかは。何事もそうですよね。だからそれをどうやってあれするかということで私は一つ提案しますけれども、私は一昨年、一般社団法人を登記しました。これは既存の観光協会が悪くてということではなくて、鎌倉のマンネリズムを非常に飽き足らなく思っている人たちが、例えば、観光協会の中にも副会長や理事でおられるんですよ。そういった方々は私の会に顔を出すようになって、そして、鎌倉の明日の観光を楽しく語り合う会という長ったらしい名前を付ける

と、今まで出て来なかったような人たちがみな出てきて、行政からお声をかけられないような人たちでも、観光問題について一家言も二家言も持っているような人たちがいる。例えば人力車の人まで呼びましたよ。そんな感じで集まると、こういうことがやれたら良いね、ああいうことがやれたら良いねということがあって、特に耳新しい目新しいものはないけれども切り口を変えて加工すると新しい商品になると、観光商品になると、いうようなことがあって、じゃあそれはしかし拠点がなきゃだめだということに結局なって、拠点を見つけようということになって、見つけましたよ。それは徹底的に民ですよ、主体は。しかし、さっきの議論の中にもあるように、鎌倉の民の力を多用しなければ何もできない状態に入っていますよ。だから公の方に何かアイデアを求めるというのはやめた方が良いでしょう。民が作って公を揺さぶって、民が公のために公的なものをやる時代ですよ。それを、漁港という一つの要素が入ったテーマの中に皆さんやる気があるかですよ。やるなら私は手伝います。具体論をもって手伝います。漁港だけで良いのか、いやあそこにどうしようもない古いプールがあるからそこも一緒に治しちゃうんだとか、いや、公園の条例がかかっているからできないこととできることがあるというけれども、じゃあ公園の条例を取っ払ってしまえば良いじゃないですか。公園の条例なんて人間が取っ払えますよ。そんなくらい強いマインドがなければ坂ノ下に何もできませんよ。私は東京工大出身のある方がやりたいことをきちんとあれすれば最初の絵は手弁当に近い状態で書いてあげると、名前を言ったら皆にわかっちゃうような人ですよ。そういうチャンネルにひそかに話をして、坂ノ下にいろんなテーマを持ち込む時に協力してくれるかと、極安で、良いよと、言質をとる前捌きの場面が皆さん其々なりにできるかどうかでしょう。加藤さんの荷を軽くしてあげなければ何もできませんよ、と、私は思っています。

F T : そうすると、なんとなく私としては、成果についての発言があったように、このWSの成果をこれこれこうしてはと具体的な提案まで持っていかないと成果にならないかなと不安を私はもっていたので焦っていたのですが、これまでの発言の中で、このWSというのはメッセージを出せば良いんじゃないかということでした。共通認識としては漁業の現場が非常に深刻な問題を抱えていると、これは皆さん共通だと思います。その上で、まず、この鎌倉の漁業というものが将来に向けてどうあるべきか、市民を受益者として巻き込んでどういう展開をしていくかについてきちんとしたビジョンを打ち立てようというメッセージ。二つ目は、今漁業者が台風

第11回ワークショップ議事録

の被害等々で喫緊に解決しなければならない問題をたくさん抱えている、これについて早急に手を打て、というメッセージ。三つ目は市だけに頼らずに、WSのこの漁業をどうするかということも含めて、様々な活動を立ち上げて、具体的な展望を取り組んでいくと、そういう姿勢が必要であるというメッセージ、こういうメッセージを最終的なイメージとしてWSの成果として出すという事であれば、なんとなく皆さんの方向性がそろっているのではないかと思うのですが、いかがですか。

参加者：なんとなく接点が見えてきたのではないのでしょうか。

参加者：少なくともその議論をやらない基本構想を作るというのは、われわれが今本当に真剣に色々なものを提示して話をして、本当にやっていこうかと、漁業者から一案が放り込まれて、あれを議論したわけではないじゃないですか。やるべきじゃないかというのは皆一致しているのに、それをなしにして、基本構想案つくりました、どうですか、というのは完全にプロセスが違うような気がしてですね。その辺、さっき言っていたスケジュール感とつながるんですが、基本構想・パブリックコメントは確かに来年度の目的だったり、今年度の委託の成果に入っているのも、その行政目的はやはり見直さないと、この議論が何のためにしてきたのかという非常に残念な結果になるので、そこを少ししっかりしてもらいたい。

事務局：皆さんの意見を聞き、その辺はきちんと考えたいと思います。あせって中途半端なものにはしたくないとは思いますが、しかし、市がWSをやるというのは、市としては漁港が必要だという認識でやっていますので、最終目的としては将来的に造っていきたいということで皆さんのご意見を聞いているということは理解していただきたい。そこはやはり皆さんの合意なしでは、100%の合意はあり得ませんが、そこは歩み寄って、先ほども機が熟したらとありましたが、タイミングもあると思いますので。

F T：皆さんがおっしゃったように今まで賛否それぞれについて様々な意見が出たし、それを今さら蒸し返しても仕方がないと思っていますし、このWSは賛否を決する場ではないし、合意も測れないと思うんです、この問題に関していえば。造りたい人、造りたくない人がやはり歴然といらっやいますので、どちらかに決めようというのは無理なのですから、先ほど皆さんからの意見を聞いて、メッセージとして、たとえば先ほどの3点ほどを掲げて、その3項について具体的にはどんなことがあるのかについて意見交換をしていくという方向で、まず来週1回ぐらい使って、最終日にざっと我々でこういうメッセージをこういう内容でよろしいかというような原案をお示しして、それを皆さんと議論するという事でよろしいでし

第11回ワークショップ議事録

ようか。

参加者：次回は何が成果となるべきかというようなイメージでそれぞれご意見されれば良いのではないのでしょうか。

参加者：その3本のメッセージをもっと力強く、提言、というか、要するに、色々な立場の人があつまって漁港を作るにあたっての検討をした結果、この3つの提言にまとまった、という風なことで、その提言について、今F Tから3本でましたが、その提言について精査すれば良いのではないか。

参加者：十分・不十分もありますしね。良いのではないのでしょうか。

F T：それに関して、今日、計画地で色々メモされたことがあるでしょうけれど、今日の議論を踏まえて、いったんお持ち帰りいただいて、次回WSの時にこういう考えはどうかと私に出してもらえれば非常ありがたいので、お忙しいと思いますが、そういう観点からの意見なりお考えなりをいただければと思います。よろしくお願いします。

参加者：今、少し今日のことで漁業の方だけに直接聞きたかったのですが、漁業組合の皆さんは50人位いらっしゃると思うのですが、今日小坪に行っただけですが、10人の漁業者の方にあちらの港を利用してもらおうということは現実的に可能なのですか。それは単にいやだっていうことなのか、絶対に無理ということなのか。こちらの漁業組合をはずれて向こうの漁業組合に入るといことですが、漁民の皆さんの中に、あちらに移りたいという方はいらっしゃるのでしょうか。

参加者：それは難しい、というのは、向こうの組合が入れてくれないと思います。

参加者：10人なら良いですよと言われたときに、お前行けと言われたら、おれはいやだお前行け、ということなのか、あるいは。

参加者：漁組になるには、引っ越さなければいけません。小坪の漁組に入るには小坪に住所が無ければいけないので、引っ越さなければなりません。だから無理です。

参加者：無理というのは引っ越しができないから無理ということですか。

参加者：私が引っ越して、今まで鎌倉の組合でやっていたのですが、こちらの組合に入りたいたいと言えば、逗子に引っ越してね、そう言えば多分受け入れてくれる、まあ、可能性はあるかも知れません。

参加者：例えば合併とかになった場合にはそういうことができるのですか。

参加者：鎌倉の漁業協同組合は鎌倉市でなければなりません。逗子の協同組合であれば逗子市民でなくてはなりません。

参加者：それは漁業協同組合法で決まっています。地先の海のものを取る権利は地先の者に与えるということですので。

第11回ワークショップ議事録

参加者：ということは例えば港はしばらくできないとして、台風がくるとか（漁業者：緊急避難はあります）、大きな被害があるかもわからないのに、引っ越すことを考えたらこちらであえて大波が来ても耐えている方が、向こうに移るよりは、いた方が良く。被災との選択を迫られたときは。

参加者：私はこっちの方が良いです。

参加者：こっちに残って耐えますと。今から逃げたいという方は引っ越す方もいるんですよ。

参加者：いや、いますよ。実際に鎌倉でお手伝いをされていた方で、こっちで漁協の組合員になろうと思っていたのですが、自分で考えて、自分はやはり、その人は葉山に行きましたが、葉山の方に引っ越されて葉山の漁協に

参加者：ここではたまらないと。

参加者：そうですね、一人では無理だということ。

参加者：それはしても良いの。

参加者：それは個人の自由です。

参加者：今日、見て、漁業者の人とも話したのですが、船を陸揚げするときにサーファーが、という問題があり、自分もサーフィンをやる中でなんか残念だなという気持ちです。具体的な動きで、例えば船が出るときにスピーカーみたいなもので船が出ますよというなんか合図をして皆がよけるというような、運用上のルールを、難しいんだとか、色々あるのかもしれませんが、例えば地元ですっとやってきているお店の店長からも聞いたことが無いのですよ。なんとなくは知っているけど。そういうことを地元ですべてやっていけば、十分協力するだろうし、船をあげるときに一緒に押すよなんていうのもありえるのかなと思ったので、せっかく今日見て感じたことなので、そういう体制もとれば良いなと思いました。

参加者：手伝ってくれていますよ。

参加者：良く理解してくれる方は、漁業者が言うまえに言ってくれますよ。地元のサーファーの方は。そこに船が上がるからそこは開けてやれよ、と言ってくれます。

参加者：怖いのは今日みたいな土日ですよ。要するに東京から来る人たちがたくさん来てる、船が前から入ってくるんですが、その船がどこに行くか理解できないから、ぼーっと見ているのですよ。船が真正面に来てもこうやってみている。

参加者：スピーカーとかで知らせないのか。

参加者：笛を吹いてよけろと言ってもどっちによけて良いのかわからなくてというのが現状です。これは、難しい。

第11回ワークショップ議事録

F T : 台風対策でこれからすぐに行かなくてはならない人がいる。

事務局 : それでは今日はこれで終わりたいと思いますが、これから次回、それからもう一回と二回ありますので、今日ご提案いただいたテーマを考えたいと思いますので、よろしく願いいたします。

終わりに

事務局から次回の開催予定、閉会挨拶を行いました。